

# 山陰海岸ジオパークは地域の誇り

問い合わせ先

市役所第二庁舎鳥取砂丘・ジオパーク推進室

TEL 0857-20-3036

山陰海岸ジオパーク推進協議会学術顧問の西田良平さんは、郷土に誇りを持つ人材育成の重要性に認識を示され、具体的な取り組みとして、小中学生が自然の中に入り魅力を感じてもらおうと、そして、ガイドを養成し、すそ野を広げていくことを提唱しています。西田さんは、これらの取り組みが、鳥取では十分できると確信しています。

## 交流人口を増やしたい

現在、山陰海岸ジオパークが姉妹提携を進めるギリシャのレスボス島ジオパークは、ギリシャの中で2番目にオリブの生産量が多い地域。レスボス島のオリーブオイルを使って山陰の食材を食べるような、草の根的なところから住民同士が交流するネットワークの広がりを、新名さんは思い描いています。

本市は、鳥取砂丘の砂で作る砂像を、ジオツアーリズムの新しい文化とし、今後も売り出していきますが、その中心となるのが、昨年12月に通算来場者数100万人を達成した「砂の美術館」です。平成23年度には大規模な施設の整備を行い、今後、ジオツアーの核に位置づけるよう取り組んでいきます。



100万人達成記念セレモニー (2010.12.23)



ジオパークについて語る竹内市長、西田さん、新名さん、山崎さん (いなばびよんびよんネットスタジオ)

昨年10月、山陰海岸ジオパークが、念願の世界ジオパークネットワークに加盟しました。新春にあたり、山陰海岸ジオパークに深く関わりのある4人が、これまでのエピソードや今年の抱負などを語り合いました。

## 人材育成を

ジオパークには、保全と活用の両面があり、自然環境を保全し次世代に伝えていくこと、産官学が連携し、また、広域で連携し地域を活性化させていくことが重要です。

## 草の根的な交流から

とっとり総研研究員の新名阿津子さんにとって、世界のジオパークの中で、理想とされるジオパークはまだないこと。どの地域も今、模索しながら理想のジオパークをめざしてがんばっているそうで、山陰海岸が世界のお手本になるような「がんばり」に期待を寄せています。

岩美町で、ダイビングサービス「ブルーライン田後」を経営する山崎英治さんは、「海中ジオパーク」という言葉を考案。海の中には、陸では見れないダイナミックな地形があり、こうした「眠っている見どころ」を発掘し、紹介していきたいそうです。

また、お店に来るダイバーと地元の漁師さんの間には、「今日はどこに潜ったんだ」という会話から交流が生まれており、鳥取自動車道の県内全線開通でより身近になった鳥取をもっとPRし、交流人口を増やしたいと、山崎さんは意欲を燃やします。

また、昨年4月に開館した「鳥取砂丘ジオパークセンター」も、昨年12月には3万人を超える来場者を迎え、鳥取砂丘を始めとする山陰海岸ジオパークを紹介する身近な拠点となっています。

広域的な観光面では、山陰本線の余部鉄橋が新しくなり、また、鳥取市と但馬地域を結ぶ道路整備が進むなど、交通基盤が整ってきました。さらに、現在、「ジオパークロード」という愛称を、鳥取豊岡宮津自動車道につけることも提案されています。

竹内市長は、今後も、ジオパーク地域の交流を盛んにするなど、基盤整備にも力を入れることを強調し、会をまとめました。

# 男性にとっての男女共同参画

～ もっと子育てを楽しもう ～

問い合わせ先 市役所本庁舎人権推進課 ☎ 0857-20-3143

平成22年12月に国の「第3次男女共同参画基本計画」が策定され、本市も「第2次鳥取市男女共同参画かがやきプラン」を策定しました。どちらも、男女共同参画を男性の視点から捉えています。

そこで、男性に対して積極的に働きかけていく必要があると、父親の育児参加の輪を広げる活動をされている「ファザーリング・とっとり」代表の福井正樹さんに、想いを寄せていただきました。



福井正樹さん

## 「お父さん」って突然呼びかけられて

わが子が生まれたその日。病院で、看護師さんに「お父さん。女の子さんですよ！」と差し出されました。待ちに待ったわが子でしたが、私の心の中は複雑。「お父さん」と呼ばれてもその自覚がないんです。こわごわわが子をこの腕に抱いても、何だか変な感じなのでした。

そして、わが子が妻とともに家に帰ってきた日から私の「イクメン」は始まりました。最初は正直に言うといやいやでした。おむつを替えるのも、壊してしまいそうで怖いし、臭いし、夜泣きをするとうるさいし、保育園に連れて行くのは恥ずかしいし…。ところが、それを続けていくうちにわが子がどんどん可愛くなっていきます。自分の中でその存在が大きくなっていきました。

## 今、なぜ「イクメン」？

育児に積極的に参加する男性やパパを総称してこう言われています。「育児をする」と「メンズ」をつなぎ合わせた言葉で、マスメディアが使い始め、その後、いろいろな自治体の首長が育児休暇を取るよ

うになり、市民権を得、現在ではブームのようになっていきます。厚生労働省のプロジェクト名にも使われるようになりました。

女性が、結婚し、子どもを産んでも、自らの能力や意欲を発揮し続けるためには、従来、「育児は女性の仕事」「男性が外で働き、女性は家庭を守る」こんな考え方を見直す必要があります。女性が担ってきた仕事を、男女がその状況に応じて分担することが大切なのです。

特に、子育ては、社会の変容、価値観の多様化等とあいまって、大変難しいものになってきています。そこで、男性（父親）も子育てに積極的に参加することが重要になってきているのです。という意味で「イクメン」は時代が要求した、社会に必要な考え方だと言えるでしょう。

## 「イクメン」をする

イヤイヤから始まった私の「イクメン」。そんな始まり方でも、子育てに少しでも関わることによっていろいろな効果

が出てきます。例えば、「父親が育児に関わること」によって母親の負担やストレス、育児孤独感等が軽減される」「父親としての実感が持て、子どもの成長とともに自らも父親として成長できる」「子どもとの距離感がグッと近くなり子どもと過ごす時間が楽しくなる」「イクメンが社会全体の動きとなれば、女性の就労機会の増大、社会進出の機会拡張につながっていく」など、育児は期間限定の、人生の中でも最も楽しく、充実した時間なのです。

「育児は女性の仕事」という既存概念を取り払って、世の男性たちよ、私たちの宝物ともいえる子どもたちと、もっと関わろうではありませんか!!



パパ力養成セミナー